

令和元年度 第2回川口市立グリーンセンター活性化基本計画検討委員会 議事録

日時 令和元年10月 9日(水) 10時00分～11時30分

場所 川口市立グリーンセンター大集会堂ホール

出席者 (委員) 土屋委員長 山岡副委員長
廣常委員 飯塚委員 石田委員 田村(高)委員
會田委員 田村(真)委員 小林委員 本橋委員
(事務局) 野崎部長 中村所長 森田副所長
二見係長 岩谷係長 峯岸係長
長島主査 浅倉主査 鈴木主査 島野主任 関根主事
(運営支援) 日本公園緑地協会

議事録

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

(1) 第1回活性化基本計画検討委員会の報告について

(2) 目標とする将来像について

(資料説明)

これまで長い間、幅広い世代にわたって多くの市民に愛されてきたグリーンセンターが、再整備後も引き続き愛されていく施設であるため、これまでの機能や事業については、できる限り集約化などを図りつつ、その上で、更に多くの市民や、より広い地域から利用者と呼び込めるよう、魅力的な新しい施設として事業を行っていくことを計画している。

(2)-1 現況施設と計画施設の対比

現在、多くの植物を展示しているが、水族館や動物園と違い、植物は動かないため、興味を持ってもらうことが少ない。また、植物園は専門的な要素が多く、その魅力を伝えることも難しいのが現状である。そこで、植物に楽しさの要素を取り入れ、今までに無い、新しい楽しみ方を提供する植物の体験型展示施設をつくり、誰もが植物に楽しみながら触れ合い、親しみを持ち、身近に感じる事が出来る体験を提供することを目的とする。資料左の欄は、現況の施設名称と機能、管理運営形態となっており、右側の欄は、計画している施設とその機能、管理運営形態の案となっている。

(2)-2 体験型植物展示施設のコンセプト

「体験型植物展示施設」については、5つの方針に沿って計画する。

1点目は、「川口市の緑化普及のシンボル」として、植木のまち安行をPRする。

2点目は、植物をテーマとした「川口市ならではの教育文化施設」を目指す。

3点目は、子育てに魅力あふれる空間として「若者や子育て世代の定住化を促す施設」として位置付ける。

4点目は、「映像産業振興都市にふさわしい施設」として、最先端の映像技術を駆使した植物の展示演出を導入し、川口市の「映像産業」のブランド力強化に貢献する。

5点目は「官民連携」の場作りであり、民間業者との連携を視野に入れた収益性の高い施設を目指す。

(2)-3 「自然体験アスレチック」のイメージ

これまで利用者が少なかったグリーンセンターの北側自然林を活性化させるため、周辺も含めたエリア全体を自然体験アスレチックエリアとし、「交流ヘルズゾーン」「森探検ゾーン」など6つのゾーンに分けて、子どもから大人まで楽しく、遊びながら植物にふれあえるエリアを構築する。

【質疑応答】

(委員) 50年、100年と1世紀に渡って良かったと思う施設となるよう、新たな見直しをするべきだと思う。昭和42年にオープンしたときに、この大集会堂はかなり良い施設であった。古いものを全て取り除くということではなくて、当時造られたものを、全体計画の中で検討して欲しいと思う。

(事務局) 建物については、耐震性やバリアフリーなど、利用者の安全性を一番に考え、利活用方針も含め検討をしていきたい。

(委員) 新たなゲートを新設する予定になっているが、他のゲートの機能が十分に果たせなくなるのではないかと思う。増やすのではなく、1つのゲートを開放的にしっかりとしたゲートにすることも検討してほしい。ゲートが少ない方が、管理や人件費の面でも良いのではないか。

(事務局) ゲートの増設については、駐車場からの利便性や安全性を良くするというところで検討している。既存のゲートを開放的にする件については、ゲートの新設と合わせて、検討していきたいと思っている。

(委員) 施設の対比にて、管理運営「民間 or 委託」と書いているところは、委託や民間へ任すという解釈で良いのか。その場合、入園料のほか、施設内の有料施設でお金を使うことになると、子どもを抱える親としては、出費が多くなるため、違うところに行きたいとなってしまいうような気がする。

(事務局) 平成29年度に都市公園法が改正され、公園内で収益事業ができるようになった。収益の可能性のある部分に関しては、民間という可能性を含めた形で書いている。実際に今後どういう形で取り入れていくかは、事業者の参加条件等の対話もあるかと思うが、ランニングコスト等の掛からない形で進めていきたい。料金体系等は、成功している事例などを参考にしながら検討していきたい。

(委員) 収益性の確保という観点から、新しいものを作って、集客する方法もあるが、既存のものを利用し、例えば芝生広場などを、学生やアマチュアバンドなどの発表する場として、有料で貸し出しするなど、収益性を上げ

る部分はまだまだあるのではないかと思う。

(事務局) イベント等の誘致で、集客や収益の向上を考えることも、併せて検討していきたい。

(委員) 利用者にどういう形でワクワク感を与えられるのかが大事になる。ハード面がいくら良くても、ソフト面で魅力がないと難しい。例えば、大宮の鉄道博物館や、名古屋にあるトヨタの記念館などは、個人的には昔こうだったというところにワクワクした。連れてくる親や祖父母の世代が、ワクワク感を覚えないと子どもを連れてこないと思う。農の歴史であるとか、武蔵野の林の成り立ちだとか、赤山歴史自然公園の展示は充実してきていると思う。子どもが行きたいというよりは、親が連れていこうというような運営の方法や、展示の中身を考えていくことが重要と思う。どうすれば心理的にワクワク感を覚えてもらえるようになるかを考えて欲しい。

(事務局) 対象としているターゲットが子育て世代ということで、子どもを中心に考えているところはあるが、シニア世代も、ワクワクするような視点でも検討していきたいと思う。

(委員) 利用料金の話も出ていたが、ある程度手頃な料金で遊べて学べて、食事もでき、総合的に見ても、料金が割高にならないで、楽しめる施設が良いという気がした。

(事務局) 再整備後の料金体系については、利用者の要望も含めて検討していくが、例えば、入園料を据え置きする代わりに、駐車場は取るという案も1つある。グリーンセンターはそんなにお金を使う施設ではないという考えだが、若い世代にアンケートを取ったところ、施設やコンテンツに魅力があればそこにお金を払っても良いという意見も多数あった。子育て世代の人たちにとって、どのようにグリーンセンターが変わって欲しいか、こちらで提示出来ればと思っている。

(委員) 園内には、貴重な樹木もたくさんあると思うが、それらをそのまま活用されるのか、公園内で移植するのか。

(事務局) 園内には約5,000本の樹木があるが、時期が限られているハナショウブ、ボタン、バラ等に関しては集約する予定である。大径木に関しては、出来るだけ残し、自然の形は残していきたいと思っている。地元の緑化や農業団体にも意見を聞きながら、進めていきたいと考えている。

(委員) 第1駐車場にも大型バス、マイクロバスの駐車スペースを作るのか。

(事務局) バスは第2駐車場の利用を考えている。ただし、第1駐車場がゲートから一番近いので、乗降の場所が出来ないか検討する予定である。

(委員) 大型バスの夜間駐車場については、駐車料金をかなり高く取っている事例もある。有料にする方向でも良いので、大型バスの夜間駐車について検討をお願いしたい。

- (事務局) 駐車場に関しては、今後、駐車料金を徴収することも検討している。運営の仕方なども併せて検討していくが、その際は大型バスの夜間駐車も含めて検討していく。
- (委員) 交通アクセス、飲食等の必要性がかなりあるのではないかと思う。市外からや、遠い人に来ていただくには、来て見て食べて体験して、買うということで、観光そのものには、総合的なバランスの取り組みが必要だと思う。周辺との連携、地域、施設とのつながり方をどうするかが必要かと思う。グリーンセンターで楽しんだ後、どこかで買い物や食事をする。駅からのアクセス、商業施設や商店街との連携が必要になってくるのかなと思う。
- (事務局) アクセスや周辺施設との連携、道路等の環境整備も含め、市の担当部局と調整を図りながら、今後検討していきたいと思う。
- (委員) 市から広域避難場所の指定を受けているが、芝生広場やイベント広場については、防災公園の要素が強いと感じている。
- (事務局) グリーンセンターは、ご指摘のとおり市指定の広域避難場所であり、防災拠点ともなっている。広域避難場所としては、ある程度のオープンスペースが必要となっていが、今後、芝生広場や駐車場の拡張も検討している。防災機能や設備も含めて市の防災担当と今後、調整していきたい。
- (委員) シンガポールの植物園には世界一の蘭のセンターがある。グリーンセンターの計画は、コンセプトがたくさんあり過ぎて、的が絞れてないような気がする。
- (事務局) 植物園という主旨に基づいて進めていたのだが、現在のグリーンセンターはレクリエーション施設としてのニーズが高くなっている。植物園として規模は縮小するが、今後は遊具等を充実させ、子育て世代層をターゲットとして、再整備を進めていきたいと思っている。
- (委員) 近隣緑化関連施設との地域連携という話で、“機能分担の視点も必要である”とあるが、具体的にどういう部分を機能分担と考えているのか。コンセプトやテーマが多すぎるという意見もあったが、そういった観点からも、分担というのが大事になってくるのかなと思う。
- (事務局) 各々関連施設の設置目的が違うが、イイナパークは自然公園という形で、グリーンセンターも自然を活かしたエリアを計画している。関連する施設とは、役割分担など考えながら、競合しないような形で、計画を進めていきたいと思っている。
- (委員) 川口市がこの公園を活用して、どの方向を目指そうとしているのかという将来像を知りたい。1つの施設で複数の機能を果たそうというのが昨今の潮流でもあるので、機能はばらばらでも良い。例えば、防災に使うが平時には、防災機能を他のものにも使えるなど。コンセプトが明確になって、

目標値がある程度外部に示されていくと、民間事業と連携するときに、ぶれないのかなと思う。

(事務局) グリーンセンターとして、コンセプトやビジョンを明確にして、様々な要素を備えた複合的な施設を検討していく。市全体としても、グリーンセンターのあり方を考えていくべきであり、また、周辺等も含めた地域活性化も考えていきたい。

(委員) パークマネジメントという公園経営の観点から、収益を上げるためにはどのような施設が必要であるかということを確認するべきである。そのためには、民間事業者にサウンディングやヒアリングすると、施設の補修を要求されることがあると思われるが、ある程度必要な機能を実現するために、専門事業者、民間事業者が要求する改修やインフラに、どの程度柔軟に対応できるのか。

(事務局) 最終的に再整備の基本計画として、配置計画を提示させていただく。その中で、ある程度の幅をもたせながら、今後のサウンディング調査等で、参入条件など詰めていければと思っている。

(委員) 新しい施設に関して、先端技術を駆使するということだが、リピーターを増やすということであれば、先端技術もすぐ古い技術になってしまうので、企画展等は、半年程度の期間で更新するようなことがあるといいと思う。

(事務局) 体験型植物展示施設は、エンターテインメントの要素として、映像などを駆使して学ぶ世界をより分かりやすく表現しようかと思っている。また、運営によるコンテンツ更新は定期的に行うものと考えている。

(委員) 自然体験アスレチックエリアに関しても、植物を楽しむという要素を含んでいると思うが、どのような植栽を検討しているか。

(事務局) 植物の種類や配置等については、今後の設計等で検討する。昆虫体験コーナーは新設予定なので、昆虫が好む樹木を植栽するなど、検討していく。

【意見交換】

(委員) グリーンセンターは市民の憩いの場所、防災のための広域避難場所、農業の振興、その3つの柱がある。今後の将来を見据えて、十分議論しないとけないと思う。

(委員) 車で来ていない方への、植木の購入方法なども考えていただきたい。また、情報発信やPRの方法も合わせて検討していくことが必要なのではないかと思う。

(委員) 立地や敷地の規模、市民の方々の声からすると、植物×エンターテインメントが1つのコンセプトで、非常に面白いのではないかなと思う。より内容を深めていけると良いのではないかと感じた。

(委員) 全国でも経済部局が公園を管理運営するというのはかなり珍しい。通常公園の管理は土木系、建設系の部署や、場合によっては公園部局が担当し、公園内の管理だけを考えると、地域のことや公園を使った産業振興、公園を使った学習、街作りなどは出来ない。その点で経済部局が一番やりやすい組織だと思うので、川口市ではこの特徴も活かしたほうが良い。

(委員) 時間軸や季節から見ても機能の必要性が出てくると思うが、繁忙期、閑散期、繁忙時間、閑散時間、それによってどのような対策、機能を分担するかということも、検討していただきたい。

4 副委員長挨拶

5 閉会